

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいわの里 子ども療育センター 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 10日		～ 令和8年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 10日		～ 令和8年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	平日のお迎え時や長期休みの期間は、保護者の送迎であるため、子どもの様子や保護者の悩みなどタイムリーな情報交換を大切にしていること。	その日の子どもの様子を、必ず一つはお伝えするようにしている。 連絡帳に書いていただく内容について問いかけたり、困り感などを共有している。	ご家族が話しやすい雰囲気づくりに心掛ける。 会話の内容によっては、他者へ聞こえないようプライバシーに配慮していく。
2	職員間の情報伝達や連携体制が取れている。	日々の利用児について記録し、定期的に話し合いの場を設けている。職員間の連絡ノートにて連絡事項を共有している。	些細なことでも共有するべきことは記録するように心掛けていく。お互いの仕事を把握、理解することで連絡体制を強化していく。
3	専門職が配置されていること。	言語リハビリなど個別サポートが充実している。	更なる連携を図り、チーム全体でサポートしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	クールダウンができる個室がないこと。	感覚過敏の利用児が落ち着ける個室がないことで、気持ちの切り替えが難しいことがある。衝立やタオル等を使用し対策しているが音をシャットアウトするには難しさがある。	音を少しでも遮断できるよう通気性のいい空間作りが必要と思われる。
2	保護者や利用曜日の異なる他児との交流の機会を設けることができていない。	交流の機会を保護者と時間を合わせるのが難しい。	イベント、行事の開催を行い、情報量を増やす機会を作る。
3	防災に関する知識が少なく、正しい避難誘導の体制が整っていない。	避難訓練は定期的に行っているが、知識が浅く、その都度打ち合わせが必要である。	内部研修で職員の知識を深めたり、避難訓練では子どもたちに分かりやすく身につけやすい内容になるように工夫していく。